

令和3年度 調布市立石原小学校 学校評価報告書（学校長 江原 幸一）

学校の教育目標

- (1) 根気よく学ぶ子（今年度の重点） 主体的に学ぶ意欲をもち、自らを高めようとする。（問題解決力、判断力）
- (2) 明るく元気な子 心身を鍛え、前向きに生活する。（体力、学習への意欲）
- (3) なかよく助け合う子 自分と他者の生命や個性を尊重し、人間関係を築く。（コミュニケーション力）

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

「子どもたち一人一人を大切に作る学校」(子どもたちが安心して過ごし居場所のある、温かみのある学校)

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① いじめアンケートの実施(年5回)	① 学習アンケートの実施(年3回)	① 休み時間の外遊びの励行
	② あいさつの励行と前言後令の定着	② 家庭学習の定着	② 食物アレルギーへの対応を確実に、給食残菜を減らす。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	① アンケートの実施による内容の聞き取りと対応を迅速に行ったため、大きなトラブルに発展することはなかった。	① 国研の魅力ある学校づくり事業のアンケートでは、「学校が楽しい」とする児童が約60%であった。	① おおむね95%以上の子どもたちが、休み時間には外遊びをする姿がある。(委員会等の役割のある子は除く)
	② 前言後令は定着しているが、あいさつは個々に弱い児童がおり固定化されている。	② 一人一台タブレット端末の導入により約90%以上の定着が見られる。	② 食物アレルギーに関するヒヤリハットは0件、毎日の残菜の量は90リットル以下となっている。
学校関係者評価	いじめに関しては十分注意して見守ってほしい。大人には分からないところで起きている場合もあるので、これからも先生方で十分連携して見てほしい。深刻ないじめが起きていないようなので安心している。		新型コロナウイルスの影響で様々な行事が変更を余儀なくされていて、今の子どもたちはかわいそうな気がする。その分、積極的にオリンピック・パラリンピックの取り組みがあるようなので、続けてほしい。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4	5	6
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 通級指導、個別指導の充実	① その道のプロフェッショナルを招聘した授業(年5回)	① マスク着用、手洗いの励行、3密の回避による教育活動
	② 都立特別支援学校との「交流及び共同学習」	② 小中連携による交流活動・授業(年2回)	② 風評や差別の防止
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	① 適切な退級率はおおむね100%を実現。日本語指導教員による個別指導は週25時間実施した。	① パラリンピアン(木村敬一選手、中町俊耶選手)や音楽家などその道のプロフェッショナルを招聘しての活動を年8回実施し、子どもたちの心に大きな影響を与えた。	① 密を回避した教育活動と飛沫感染対策を講じた教育活動を常として行ってきた。児童の感染はオミクロン株では避けられず、複数名の感染が確認され、学年閉鎖や学級閉鎖を実施し、感染拡大防止に努めた。
	② 都立大塚ろう学校5年生の副籍児童との直接交流を実現し楽しい活動ができた。	② 3学期に調布中学校の先生による出前授業を行うことができた、中学校生活を全員が楽しみにしている。	② 教職員並びに子どもたち一人一人の人権意識を啓発し、風評等の被害を極力抑えることに努めていった。
学校関係者評価	個々の課題に応じた通級指導や個別の指導を今後とも続けてほしい。このコロナ禍、都立のろう学校の児童と直接交流できたことは素晴らしいことだと思う。来年以降もぜひとも続けてほしい。	何と言っても体験することはとても意義深いことだと感じる。特に金メダリストの木村敬一選手と直接触れ合えたことは、子どもたちの心に大きく記憶として残るであろう。音楽も録音で聞くのと直接生の演奏を聴くのとでは、大きな違いがある。	新型コロナウイルスに感染しないように、させないように配慮しながらよくやっていただいている。子どもたちにも我慢を強いているが、できる限りの活動をしてあげてほしい。

人材育成・組織運営

自己評価	<p>【若手教員育成】①若手(採用4年目まで)と主任クラスをペアで組織をつくったので、効果的な育成が図られた。</p> <p>②校内ミニ研修(15:30-15:45)を13回行い、学習指導・生活指導・校務処理などの問題解決や相互研鑽を行うことができた。</p> <p>③人間性を豊かにするためにその道のプロ2名の招聘を行い、職員自身の感性を刺激し、視野や見聞を広めることができた。</p> <p>【中堅教員の育成】①校務分掌において、一人一役主任(リーダー)に位置付け、自覚と経験を積ませるようにしたため育成には効果的であった。</p> <p>【円滑な組織運営】①PDCAサイクルをもとに、改善すべき点は年度末を待たずに順次改善を図った。</p> <p>②年度末の学校評価では、教員一人一人の学校経営への参画意識をもたせるために、各分掌で改善案を出させるようにした。参画意識はおのずと高まったととらえている。</p>
------	--

学校関係者評価	<p>○今年度も新型コロナウイルス感染症への対策を講じながらの学校運営であり、行事などは規模などを縮小しながら行ったが、オリンピック。パラリンピック教育では、現役のパラリンピアンを招聘して有意義な活動が実施できてよかった。</p> <p>○若手教員の育成体制、研修体制が充実していて良かったのではないかと。特にメンタル面で不調をきたす先生方が全国的にも多いようなので、若手の先生方へのバックアップ体制をしっかりとお願いしたい。</p> <p>○新聞やテレビなどの報道を見ていると、学校の先生の働き方改革がなかなか進まないようである。特に、一人一台のタブレットが入ってICTの対応に追われているように感じるので、できる限り教育委員会などからのバックアップを期待したい。</p> <p>○これまで同様、学校と地域との良い関係性を続けていきたい。</p>
---------	--

中期的な経営目標の達成状況

- 1 教職員一人一人の人権感覚を豊かにするとともに全教育活動を通して人権教育を徹底し、児童の自立心と思いやりの心をはぐくむことにより、いじめや不登校等の問題行動の未然防止・早期発見に努める。
→ おおむね達成できたと感じている。
- 2 学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を柱に、学習に興味や関心をもたせ、人や事象との対話・対話的活動を通して自らの考えを広げ深めたり、新たな問題を見出して解決したりする授業改善を推進していく。
→ 新型コロナウイルス感染症の影響で「対話する授業」は行うことができなかったが、児童（4～6年生）の学校アンケート「授業は分かりやすく楽しいですか。」の質問に対して、約8割以上の児童が肯定的な回答をしており、「主体的な学び」については、おおむね達成できたと考えている。
- 3 通級指導教室の拠点校として、校内通級教室の環境を整備・活用し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容・方法の充実を図る。
→ 通級指導教員8名の連携はよく、チームとして教育目標をおおむね達成できた。また指導教室内の「構造化」も研究し取り入れることができた。
- 4 全教職員が組織の一員として協働し相互研鑽することを目指すとともに、学校運営に参画する意識をもち組織体として教育活動を行う。
→ 新型コロナウイルス感染症など、様々な社会情勢における困難な課題が多く存在していたが、教職員は一致団結し困難を乗り越えることができたと感じている。

次年度の重点課題

- ◎ 学習指導要領で育成すべき資質・能力の三つの柱「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のうち、特に「確かな学力」（知識及び技能が習得されるようにすること）に重点を置き、「学びへの主体性」をはぐくむ教育活動にあたる。その際、タブレット端末などのICT機器を積極的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を柱に、学習に興味や関心をもたせ対話的活動を通して自らの考えを広げ深めたり、新たな問題を見出して解決したりする授業が構築できるよう、日々の改善をより一層推進していく。
- ◎ 情報リテラシーに関しては、子どもたちが「得た情報」を主体的にとらえ自ら考え活用し、他の人たちと協働できるようにするための「情報活用能力」の育成に努める。